

坂町文化財 No.21

23回シリーズで坂町文化財保護委員の皆さんが、史跡案内看板設置箇所をご紹介します。見慣れた町の風景に新しい発見がありますように。

まちをぶらり～瀧の明神社～

水尻にある瀧の明神社は、水尻駅から出発してふるさと自然のみち案内板を目印に山手側に400mほど上がって行きます①。



2つ目の案内板を右に、参道を上がります②。



階段を47段上がると鳥居が見え、次の階段を18段上がると2体の狛犬が待つ境内に到着です③。

昭和11年の再建時に書き残された由来記によると、水尻地区の守り神として、約160年前の元治元年にこの地に祠を建立して勧請しました。その後、参道の整備や鳥居が建立されるなど、地区住民により大切に管理され現在に至っています。

神社を後に、ベイサイドビーチ坂へ海を眺めに寄り道するのもお勧めです。

工事車両に注意!

ふるさと自然のみち 水尻ベイサイド遊歩道↑

あたたかい 心のともしび

つぎの方々から、社会福祉事業資金としてご寄附をいただきました。厚くお礼申し上げます。
(10月受領分・敬称略)

◎一般寄附者
歌声広場

よろこび

おめでとうございます
10月届出分 敬称略

- 山下 楓生 (坂東一丁目)
- 杉浦 日菜 (坂東二丁目)
- 中迫 碧央 (坂西二丁目)
- 世良 美月 (坂西二丁目)
- 松本 奏汰 (北新地二丁目)
- 金谷 凌 (平成ヶ浜一丁目)
- 井上 瑠心 (平成ヶ浜二丁目)
- 清水 柚希 (小屋浦二丁目)

かなしみ
おくやみ申し上げます
10月届出分 敬称略

- 宮田 賢一 (坂東三丁目)
- 湯戸久美子 (坂西一丁目)
- 木戸 玲子 (坂西二丁目)
- 北本ハツ子 (坂西二丁目)
- 榎尾 光範 (坂西三丁目)
- 藤澤 勝利 (坂西三丁目)
- 橋本 延江 (横浜東二丁目)
- 中東 尚子 (横浜中央二丁目)
- 車地 一秀 (植田三丁目)
- 柚木 愿 (植田三丁目)
- 土田スミ子 (89) (植田三丁目)

このコーナーに掲載を希望しない方は、届出のとき申し出てください。



今月の休日当番医

診療時間 9時～17時30分 休診時間 13時～14時

日付	坂町・熊野町	府中町	海田町	広島市安芸区
3日 (日)	豊田レディースクリニック (女性内科・産婦人科) ☎855-1913	西村内科医院 ☎281-6001	まりあ眼科クリニック ☎821-1166	森石内科医院 ☎893-0020
10日 (日)	三登医院 (内科) ☎885-0037	なんば内科 ☎282-4511	寺沢耳鼻咽喉科医院 ☎824-1187	廣本クリニック (内科・外科) ☎888-5077
17日 (日)	おかだ眼科 ☎855-6633	小山田内科医院 ☎281-0807	高橋医院 (内科・小児科) ☎823-4602	あとクリニック (内科・外科・リハビリ) ☎856-0612
24日 (日)	小坂内科医院 ☎885-0108	府中水野皮膚科クリニック ☎284-4112	ちえ内科クリニック ☎847-6500	くすのき眼科 ☎893-0300
31日 (日)	済生会広島病院 (内科・整形外科) ☎884-2566	唐崎耳鼻咽喉科 ☎284-0333	森原内科胃腸科医院 ☎822-5550	安芸市民病院 (内科・外科・小児科) ☎827-0121

受診を迷うときは、#8000こどもの救急電話相談 (毎日、19時から翌朝8時まで)、#7119成人の救急電話相談 (24時間365日) もご利用ください。

今月の納税

口座振替日 12月25日(月) 口座振替の登録をされている方は、口座振替日の前日までに残高の確認をお願いします。	12月25日 (月) 固定資産税……………第3期分
	1月4日 (木) 国民健康保険税……………第6期分 介護保険料(1号)……………第9期分 後期高齢者医療保険料……………第6期分

坂町の人口と世帯

(11月1日現在)
男: 6,100人 (前月比+17)
女: 6,602人 (前月比+7)
計: 12,702人 (前月比+24)
世帯数: 5,799世帯 (前月比+32)

坂町史

第117回 坂町のいまむかし (中村地区亥の子神楽の風景)

亥の子祭りの神楽は、約200年前から行われている伝統芸能です。坂町では、中村地区と勿条地区の2地区の保存会によって地区ぐるみで守り、継承されています。

今月は、中村地区亥の子神楽の練習の様子をご紹介します。



①第1景 (岩戸舞) の舞姫とオカメ、ヒョットコ



②第5景 (鯛釣り舞) の恵比須様とお猿さん達

亥の子神楽は、悪魔を退治し収穫祝いと子孫繁栄を祈念して舞う神楽で、5景の演目で構成されています。11月の寒空のもと、本番に向けて練習に取り組むのは、地区の小学生から大人まで、みんなで舞を盛り上げます。

子どもの数が減少するなか、何とかこの亥の子神楽の灯を絶やさないように保存会の方々は伝承に努められています。